

研究所だより

第380号
2017年 11月17日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“しずかな しずかな 里の秋 おせどに木の実の落ちる夜は
ああ かあさんと ただ二人 栗の実にてます いろりばた”
『里の秋』 童謡・唱歌 1945年



～過ぎゆく秋～

立冬が過ぎました、暦の上では季節は冬になるが、冬と呼ぶにはまだ早い。しかし、日脚も短くなり、山では初冠雪の便りが届く頃となります。平野部では、紅葉も段々と色付きが進み、見頃を迎える名所が増えてきています。

＜外国語教育コア・エリア実践研究指定事業＞

第4回外国語教育推進会議

10月23日（月）に第4回外国語教育推進会議（公開授業・研究協議）を開催しましたので主な内容について報告します。

この日は5-1学級担任・沖本花苗教諭の公開授業が行われました。単元は「クイズ大会をしよう」でした。最初の挨拶では、授業者と子ども、子ども同士や参観の先生方と楽しく笑顔できていました。既習の復習では、ピクチャーカード、ICT等を活用して元気に復習できていました。活動のスリーヒントクイズでは、相手のことを考えて分かりやすく伝えることを意識した活動ができ、授業の最後にはスリーヒントクイズに挑戦し、上手にヒントを考えて発表できていました。以下、授業の流れ、講話です。

1. 公開授業 単元：「クイズ大会をしよう」（Hi, friends! Lesson 7）
* 授業展開（クラスルームイングリッシュ、ピクチャーカード、ICT等を活用した質の高い授業でした）

- ① Greeting
- ② Review（絵カード）
- ③ Review（シルエットクイズ）
- ④ Activity I（スリーヒントクイズ）
- ⑤ Activity II（スリーヒントクイズ発表）



2. 推進会議（活発なグループ協議ができましたが、主な活動だけを記載します）

(1) 公開授業についての研究協議

講師：長崎 政浩 教授（高知工科大学）

（長崎教授主導のもとで研究協議を進めていただきました）

① 授業研究ワークショップについて（教授の説明）

「仲間や同僚と授業を分析・検討することを通して、英語の授業づくりのための視点と基礎体力を養う。」

- ・きれいな発表は必要ありません。
- ・主体的、対話的で深い学びを生み出す全体協議
- ・一つの授業を通して、自分自身が考え、学ぶ時間です。

② ワークショップの進め方（教授の説明）

Reflection（授業者の振り返り）

- 1 Celebration（祝福）
- 2 Collaboration（協働）
- 3 Action（行動）

Summary（学びの振り返り）

上記について順番にグループ協議（付箋記入・発表）を行う。

ア. Reflection（授業者の振り返り）

イ. 1 Celebration（祝福）下記の4点についてグループ協議・発表

- ☆今日の授業から学んだこと
- ☆自分自身でもやってみたいこと
- ☆真似したいこと
- ☆Best Practiceとして残したいこと

ウ. 2 Collaboration（協働）下記の3点についてグループ協議・発表

- ・改善が必要だと思ったこと
- ・疑問に思ったこと
- ・問題点

ー長崎教授からー

Presentation

↓

Practice

↓

Production



Production

↓ Feed Back

Presentation

↓

Practice

アクティブ・ラーニングの考え方

エ. 3 Action（行動）

- ・定着…日付、曜日の練習
- ・ALTの活用…ALTとのSmall Talkを設定する
 - ① T1とALTで
 - ② 小5：T1、ALTと子どもたち全体で
 - ③ 小6：毎回主題を与える
- ・専門的な部分…発音は正確に
文法の正確性
どこまで指導するか（英語の骨格的なものを取り入れる）

オ. Summary（学びの振り返り）

小：今日ぐらいの授業レベルを構築していく。

中：小のレベルをどうつなげていくか。

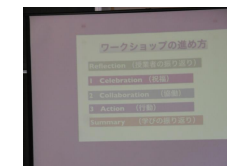
小中で学び合う機会を作っていく。

- ・Inputがたくさんあればあるほど身に付く
Small Talk、読み聞かせ等
- ・子どもたちにいかにチャレンジさせるか。

(2) 外国語教育コア・エリア推進プランについて

講師：松本 桂 指導主事（西部教育事務所）

- ① 移行期間中の授業の実施について（別紙A4綴じ）
- ② 外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置（別紙A4資料6）



*** 授業時数**

ア. 移行措置・先行実施期間（H30, 31）

○小学校の時数について

・移行期間中

【外国語活動】 中学年：15時間～35時間

高学年：50時間～70時間

・全面実施（H32～）

【外国語活動】 中学年：35時間

【外国語科】 高学年：70時間

イ. 短時間学習（モジュール学習）について

◆15分などの短時間学習は、45分授業との関連を明確にする。

◆短時間においても、目的や場面を設定し、取り組ませる。

*時数合わせのためでなく、全体の計画の中で、短時間学習を設定することの意義を見極めて取り組む。

ウ. 評価について

・移行期間：現行学習指導要領の評価に基づく

◆文章記述で評価

◆高学年については、教科の内容は入るが、評価は外国語活動

・全面実施：新学習指導要領の評価に基づく

◆数値による評価

◆3観点評価 今後、文言が変わる可能性もある

○内容の配列（別紙A3資料参照）

移行期間中は、枠で囲んだ部分は15時間行う。

③校内研修の充実について

ア. 研修ガイドブックの活用

イ. 文部科学省作成DVDの活用

～今後の予定～

第5回外国語教育コア・エリア推進会議（公開授業）

○期日：平成30年 2月 1日（水）5校時

○会場：幡陽小学校



～「平成28・29年度高知県実践的防災教育推進事業」拠点校～

○「防災教育研究発表会」

期 日：11月 7日（火）

講 師：大木 聖子 准教授（慶應義塾大学 環境情報学部）

会 場：清水中学

清水中学校は「平成28・29年度高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、今年が2年目です。1年目で培ったきた学習を2年目は地域・保護者を巻き込んだ訓練や、地震発生後の自分の行動を思い浮かべ、小説風を書く「防災小説」の取組、避難所運営訓練や各小学校への出前授業等様々なことに取り組んできました。その取組の一環として「防災教育研究発表会」を設定しました。

初めに、沼瀬教諭（防災教育担当）がこの2年間の実践について発表を行いました。続いて3年生による出前授業の取組について、各クラスが工夫を凝らして、分かりやすく発表してくれました。

大木先生の講話では、この2年間を振り返ってと題して清水中学校の取組の動画を視聴しました。視聴後、大木先生は、2012年の政府の発表（M9.1、震度7、津波30M）のもと、専門家にとっての南海地震を捉えてきました。しかし「みなさんにとって南海トラフ地震とは何ですか？」の問いかけに、2年の取組を通じ「命を守るために、みんなと助け合って適切な行動が取れるか」ということが防災小説の中に書かれている。「まだ」を「もう」として語るDays-Afterの物語。専門家は、未来を未来として語る。しかし、小説では未来を過去のように語っている。未来を変えるのはどちらの語りなのか。と話がありました。

今日のお話のまとめとして、

■南海地震が起きたら、自分はどうするか、家族は、地域はどうなるか、ということを防災学習を通して向き合った。（それを通して、南海地震の自分たちにとっての意味を考えた）

■「まだ」起きてないことを「もう」起きたかのように物語ることで、自分も、周りも変えることができる。

■未来は、こうして自分たちの手で変えいくことができる。

清水中発の防災小説は、全国各地に伝わっています。

自分たちも防災小説を書いてみよう、という中学校も出てきました。

この学習を通して生徒達にも変化が見られました。

「自分達が率先してやらなければいけないと思った。」

「今までは、避難することだけであったが、今では避難場所での行動を考えるようになった。」

など自分こととしての意見が述べられました。

最後に、大木先生は「この土佐清水市のことを一番知っているのはみなさんです。このことに向き合ってください。起きたことをどう自分の人生に位置付けていくか。語ることで未来を語るができる。」と結びました。



☆書籍の紹介 I ☆ ～ご利用をお待ちしています～

○新教育課程ライブラリⅡ Vol.9

「移行措置期の学校づくりを考える」

○新教育課程ライブラリⅡ Vol.10

「子どもの成長をつなぐ保幼小連携」

